

(公財) 日本ヘルスケア協会から

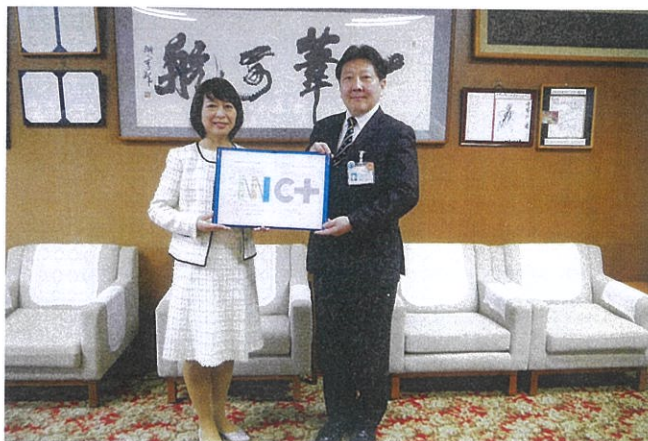
発行：日本ヘルスケア協会 事務局

さて、今回は3月12日発行のニュースリリースNo.90以降の動きについてご報告いたします。

1. JAHlは4月3日、中野区とパートナー協定の締結式を行いました。

かねてよりJAHlは東京・中野区との間で連携協力関係の構築を進め、2月27日には「中野区地域包括ケア推進パートナーシップ協定」を締結しましたが、この度、小原道子理事（帝京平成大学薬学部教授）が酒井直人区長を区長室にお訪ねし、締結式を行いました。

この制度は、正式には「NIC+」（ナカノ・インクルーシブ・ケア・パートナーシップ）協定と称され、区と民間事業者・教育機関・団体等が連携協力関係を構築し、双方が自らの資源やノウハウを活用した地域貢献活動の取組みや地域のネットワークへの参加を促進することによって、中野区における地域包括ケア体制の充実を図ることを目的として実施する「公民連携制度」です。健康・福祉増進、在宅療養、認知症対策、孤独・孤立対策、介護予防、見守り支援等多岐にわたる取組みメニューが考えられています。



中野区には5月の新庁舎竣工を機会に、従来提案されてきた「中野区ヘルスケア祭り」への参画や、新庁舎の一角に常設するスペースでヘルスケア商品・サービスの見本市を開催する試みを提案して頂いています。この度の協定では、行政の側から「こういう試みはどうでしょうか」、「こんなことをやりたいけれど、手を挙げて頂ける事業者の方はおられますか」といった積極的なご提案が準備されているのが大きな特色です。一方、JAHl側では、会員企業によるミニセミナーや健康測定機器を持ち込んでの健康測定会の開催など、個々の企業では開催効果が上りにくかったり、民間企業にとって区と直接では連携が取りにくい催事が、JAHlとのパートナーシップ協定の下でなら実現しやすいのではないかと期待があります。さらには、健康茶の試飲会、介護食品の試食会等、気軽なヘルスケア活動の取組みも、パートナーシップ協定の下では展開しやすいのではないかと考えられます。

いずれにせよ、酒井区長は、この協定がフルに活用され、区民の健康維持・増進を図られるとともに、中野区で健康寿命延伸を実現し、その動きを全国に広めていく取組みに育てていきたいとの抱負を表明されておられます。

2. 馬建鋒先生（岡山大学教授）がノーマン・ボーローグ賞を受賞されました

昨年8月、JAHl新事務所開設記念の特別講演会「土・作物・健康を繋ぐミネラル輸送」にご出講頂いた岡山大学植物資源研究所教授の馬建鋒先生が、昨年11月カタールの首都ドーハで開催された国際肥料協会の年次大会において、2023年度のThe IFA Norman Borlaug Plant Nutrition Awardを受賞されました。

この賞は、植物栄養学の発展に多大な貢献をした一人に毎年授与されるもので、緑革命の父・ノーベル賞受賞者のノーマン・ボーローグの名に因んで設けられているものです。

馬先生長年植物のミネラル輸送機構に関する研究を行い、数々のミネラル輸送体を世界に先駆けて同定し、その制御機構を解明されていることが高く評価されたもので、先生はこれでまた一歩ノーベル賞の受賞に近付かれたとささやかれています。

3. 令和5年度ヘルスケア研究助成の選考委員会が開催されました

4月4日午後、応募23件の申請に関する選考委員会が開催されました。4月12日（金）午後、採択案件5件の公表が予定されています。